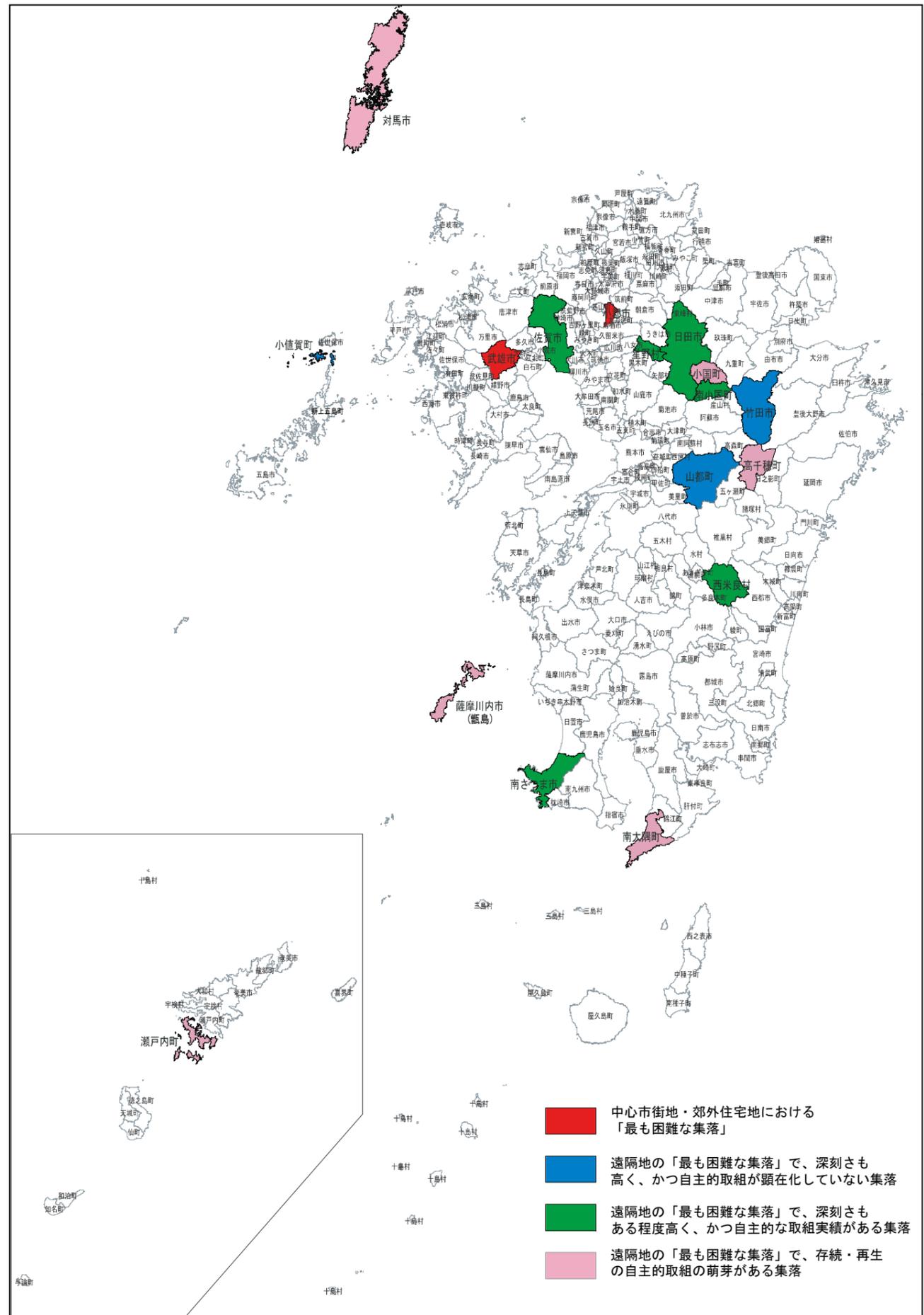


直接面接調査報告

平成20年3月21日(金)

資料2によって選定された地域は、右図に示すとおりとなる。



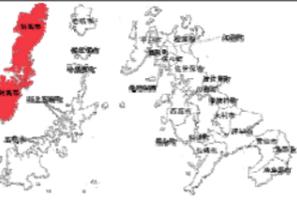
※「最も困難な集落」: 各自治体において今後10年以内に集落機能の維持が困難になると回答した5つ集落のうち、最も困難とされた1集落。
 ※「深刻さが高い」: 「人口減少率30%以上」かつ「高齢化集落率10%以上」かつ「平均世帯数65世帯未満」の小規模高齢化集落
 ※「深刻さがある程度高い」: 「人口減少率30%以上」または「高齢化集落率10%以上」の集落

直接面接調査 調査概要(1)

調査対象地 / 存続・再生施策テーマ	調査対象者	人口動態	国土保全・地域資源	地域産業・経済	生活サービス	地域コミュニティ・交流	直接面接調査から 得られた今後の主な施策案
<p>福岡県八女郡星野村 「既存施設を活用した都市農村交流の推進とお茶・棚田を活かした地域ブランド化戦略」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○星野村(総務企画課) ○A集落代表他 ○星野村山村留学センター「星の自然の家」 ○財団法人 星のふるさと ○星野村商工会 	<p>○星野村は、福岡県の中山間に位置し、人口減少の著しい地域である。</p> <div data-bbox="706 310 1080 422" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><星野村> ・高齢者率 38.4% ・人口増減率 0.87</p> </div> <p>○A集落では、昭和30年代をピークに人口減少が進んでいる。</p> <p>○A集落では、近年60~70歳の定年退職者の2地域居住でのIターンがみられる。</p> <div data-bbox="706 642 1080 753" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>対象集落：A集落 高齢者率：40%以上 人口：26世帯</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○山あいであり、棚田景観など地域資源が豊かな地域である(星野村)。 ○材価低下や所有者の村外への転出により、山林管理が行き届いていない状況。(星野村) ○現在、村内の専門林家はA集落に3軒あるのみで、森林組合の林地管理に従事している。(星野村) ○空き家の荒廃が進む。(A集落) 	<ul style="list-style-type: none"> ○お茶(星野茶)の生産地として著名である。(星野村) ○玉露は、品評会で近年上位を独占している。(星野村) ○近年、棚田が景観資源として注目を浴び、旅行会社と共同でオーナー制度を始めている。(星野村) 	<ul style="list-style-type: none"> ○日用品は、村役場周辺で購入可能である。(星野村) ○村役場周辺に内科、歯科、小児科の施設がある。(星野村) ○専門医療は、八女市まで行かないと受診できない。八女市までの通院者も多いと思われる。(星野村) 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校統廃合で4校中3校が廃校となっている。(星野村) ○A集落のある校区では、高齢化・人口減少が進行しつつも、地域行事が継続されている。(A集落) ○山村留学受け入れや民泊の実績が有る。(A集落) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「廃校小学校を利用した地域ブランド化や村情報の発信・農産物の販売・加工」 ・廃校小学校を、地域の特産品の販売・飲食拠点として活用し、観光交流と共に特産品のブランド定着に努める。 ○「廃校小学校を利用した山村留学など都市との交流」 ・廃校小学校をリニューアルし、滞在拠点として都市圏交流事業を構築する。
<p>福岡県小郡市 「都市近郊における郊外住宅地の高齢化状況把握及び公共交通サービスの見直し」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○小郡市(総務企画課) ○B集落代表他 ○NPO法人サボネットおごおり 	<p>○小郡市全体では人口は増加し、高齢者率も低いものの、郊外住宅地で局所的に高齢化が著しく進むなどの問題が生じている。</p> <div data-bbox="706 976 1080 1087" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><小郡市> ・高齢者率 19.8% ・人口増減率 1.14</p> </div> <p>○B集落は、子供世代の独立により親世代だけで居住する世帯が増加している。</p> <div data-bbox="706 1203 1080 1314" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>対象集落：B集落 高齢者率：40%以上 人口：448人</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○七夕発祥の地として知られ、七夕神社など固有の観光名所がある。(小郡市) ○周辺の田畑や水路用地の一部を耕作し家庭菜園を行っている。(B集落) ○月一回の清掃活動など、地域の環境美化活動に取り組んでいる。(B集落) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ベッドタウンのため、際立った地域の産業などが見当たらない。(小郡市) ○市内に大きな小売店舗や商店街が無いために商業規模が著しく低いことが今後の課題の一つとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スーパーが一軒あるが、より豊富な品揃えを求めて、郊外ショッピングセンターに出かける人もいる。(B集落) ○コミュニティバスは、便数が少ないため、不便さを感じている利用者もいる。(小郡市) 	<ul style="list-style-type: none"> ○自治会では、自治区の活力を維持するため、公民館を中心としたカルチャースクール等の充実に取り組んでいる。(B集落) ○B集落では、「防犯パトロール隊」を結成し、24名の隊員によって、地域の防犯活動に貢献している。(B集落) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「高齢者コミュニティの活性化」 ・高齢者の多い郊外住宅地の空き屋をグループホームとして活用し、地域交流を図る。 ○「高齢者が暮らしやすいまちづくりの検討」 ・現状の都市近郊型の田園都市を活用し、高齢者が住みやすい環境を継続する。 ○「市内の公共交通体系の見直しの必要性」 ・現行のコミュニティバスの運行形態を見直し、より効率的・利便性の高い運行を構築する。
<p>佐賀県佐賀市(旧富士町) 「都市部に近い中山間地域の生活実態と古湯・背振の資源を活かした都市農村交流」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○佐賀市(企画課) ○佐賀市富士支所(総務課) ○C集落代表他 ○富士町古湯映画祭実行委員会事務局長 ○古湯温泉旅館組合 ○富士大和森林組合 ○JA さが富士町総括支所 	<p>○佐賀市合併前の旧富士町において、高齢化・人口減少が課題となっている。</p> <div data-bbox="706 1455 1080 1566" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><佐賀市> ・高齢者率 20.8% ・人口増減率 0.97</p> <p><旧富士町> ・高齢者率 34.6% ・人口増減率 0.83</p> </div> <p>○C集落では、昭和45年以降人口減少が続いており、現在は昭和45年次の1/2まで減少している。</p> <div data-bbox="706 1829 1080 1940" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>対象集落：C集落(旧富士町) 高齢者率：60%以上 人口：46人</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○古湯温泉ほか、天山スキー場など、観光資源が豊富にある。(旧富士町) ○天山スキー場への通り道のため、ごみの投棄が多い。(旧富士町) ○イノシシの鳥獣被害が増加している。(C集落) ○森林組合が杉皮のペレット利用で古湯の湯温を上げる取組を開始しようとしている。(旧富士町) 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業の担い手が不足している。(旧富士町) ○みつせ鶏、羊羹などが名産品となっている(旧富士町)。 ○古湯温泉宿泊者は減少傾向だが、リピーターは多い。(旧富士町) ○収入減による林業農家から兼業農家への転換。(C集落) 	<ul style="list-style-type: none"> ○現在、旧富士町では、ロードバンド未整備の状態である。(旧富士町) ○旧富士町内の公立病院において、98床の入院設備があるが、年間1億円程度の赤字となっている。(旧富士町) ○集落には、巡回バスが運行しているが本数は少ない。(C集落) 	<ul style="list-style-type: none"> ○かつて八^{はち}大^{だい}龍^{りゅう}王^{おう}さんの祭を実施していたが、近年若者が減ったため、儀式を簡便化させている。(C集落) ○かつては祭に合わせて帰省がみられたが、近年はほとんどない。(C集落) ○自治会の定期会合は2ヶ月に1回程度開催しているが、減少傾向にある。(C集落) ○かつてゲートボール大会を実施していたが、人手不足で今は実施していない。(C集落) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「林業集落から農村集落への転換」 ・近年の林業の低迷状況から、農村として、他産業も合わせた複合的な新たな産業を構築する。 ○「森林資源を地域のエネルギー資源として見直す新たな取組」 ・古湯温泉の燃料に、地域の杉皮を原料としたペレットを用いることで、地域循環社会を形成する。 ○「中山間地の集落の実態把握および自立支援を目的とした新たな取組」 ・集落の実態を再確認すると共に、自立の度合いによって、取組メニューを検討する。

※高齢者率：H17年国勢調査、人口増減率 H17/H7 国勢調査 ※集落関係者のプライバシーに配慮し、集落名はすべてアルファベットで表記しております。

直接面接調査 調査概要(2)

調査対象地 / 存続・再生施策テーマ	調査対象者	人口動態	国土保全・地域資源	地域産業・経済	生活サービス	地域コミュニティ・交流	直接面接調査から 得られた今後の主な施策案
<p>佐賀県武雄市 「中心市街地の人口減少・高齢化による地域の課題及び対応策の把握と、地域資源(温泉)の活用方法」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○武雄市(企画部 市民協働課) ○D集落代表他 ○温泉通り振興 会長 ○武雄市商工会 議所 	<p>○武雄市全体では人口減少・高齢化は緩やかなものの、中心市街地で局所的に人口減少・高齢化が進行している。</p> <p>＜武雄市＞ ・高齢者率 24.8% ・人口増減率 0.95</p> <p>○D集落ではアパートが多く、独居高齢者が多い。</p> <p>○D集落では、平成15年の火災以降、住民の転居等で人口が減少している。</p> <p>対象集落：D集落 高齢者率：50%以上 世帯数：25世帯</p>	<p>○JRの駅名称が「武雄温泉駅」になるなど、豊富な温泉資源がある。(武雄市)</p> <p>○武雄温泉のシンボルとなる楼門は、建築家辰野金吾の設計であり、国の重要文化財に指定されている。(武雄市)</p> <p>○武雄温泉が隣接する自治区で、区内に2軒の旅館がある。(D集落)</p> 	<p>○郊外に大型ショッピングセンターが立地している。(武雄市)</p> <p>○店主の高齢化、また大型店の出店により、シャッター商店街化している。(D集落)</p> <p>○商店を潰した跡地を月極めの駐車場にするケースが多い。(D集落)</p> 	<p>○ブロードバンドなど、情報通信基盤はほぼ整備されている。(D集落)</p> <p>○個人病院が多く、1次診療は充実している。(D集落)</p> <p>○市街地の中心にある武雄市立救急病院は、採算面などで課題があり、現在住民も含めて、今後の運営について協議している。(D集落)</p>	<p>○商工会議所が主体となって、春と秋の温泉まつりや楼門朝市を実施している。(武雄市)</p> <p>○自治公民館を有しておらず、多くの活動を隣接する自地区と共同で実施している。(D集落)</p> <p>○ホームヘルパー、民生委員による高齢者世帯への定期訪問を実施している。(D集落)</p>	<p>○「地域における見守り力の維持」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者に対する民生委員等の見回り活動を継続する。 ○「人的資源の有効活用と後継者の育成」 ・婦人会、敬老会、若手会、子供会など、世代を超えた地域活動の交流がみられる。特に温泉商店振興会が、若手会の育成に取り組んでおり、地域の人的資源の有効活用になっている。今後これらの活動を継続する。 ○「温泉を活用した地域づくりと人的資源の誘致」 ・地元住民以外にも、外からの人的資源を誘致できる環境を整える。
<p>長崎県北松浦郡小値賀町 「離島の特産品の販売促進と、国際修学旅行受入れや地域振興策、定住促進策の実施」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○小値賀町(総務課、産業建設課) ○E集落代表他 ○NPO法人おぢかアイランドツアーリズム協会 ○おぢか国際音楽祭実行委員会 ○Iターン経験者 	<p>○小値賀町全体で人口減少が顕著であり、平成7-17年間の減少率0.77は、九州圏の市町村で最も高い数値となる。</p> <p>＜小値賀町＞ ・高齢者率 39.1% ・人口増減率 0.77</p> <p>○E集落は、昭和35年以降、人口減少が続いている、現在では、昭和35年の約10%まで減少している。</p> <p>対象集落：E集落 高齢者率：60%以上 人口：30人</p>	<p>○無人島にある旧野首カトリック教会堂は、長崎県の指定文化財に該当し、また現在、世界遺産登録を目指している。(小値賀町)</p> <p>○空き家を利用した古民家再生事業を平成20年度に発足する予定。(小値賀町)</p> <p>○E集落では、空き家が数件あり、倉庫としてのみ利用されている状態である。</p> 	<p>○塩うに、鮑の佃煮などの海産物が豊富である。(小値賀町)</p> <p>○特産品はメロン、ブロッコリー、ピーナッツ、実エンドウなどとなっている。(小値賀町)</p> <p>○「おぢか国際音楽祭」などを開催し、韓国を中心とした国際観光交流に努めている。</p> 	<p>○第三セクターにより公共交通「小値賀交通」が運行されているが、赤字運行である。(小値賀町)</p> <p>○島内に診療所が1箇所設置されている。(小値賀町)</p> <p>○産婦人科が無いと、島外での出産に、補助金を出している。(小値賀町)</p> <p>○ブロードバンドは、未整備の状態である。(小値賀町)</p> 	<p>○大島、納島、六島の3島に対しては、集落維持費の助成を行っている。(小値賀町)</p> <p>○4月10日に、金毘羅さんの祭りを開催しており、祭りに合わせて一部帰省もみられる。(E集落)</p> <p>○祭事は集落単位で実施している。(E集落)</p> <p>○寄り合いは、2ヶ月に1回程度開催している。(E集落)</p>	<p>○「地元経済への波及効果を優先させる産業政策」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メロン等、地域ブランドとして確立しつつある農業を今後も継続し、対外的波及効果を高める。 ○『アイランドツーリズム』による様々な体験プログラムの立案と第一次産業の支援 ・漁業・農業以外に、観光業を合わせることで、複合産業を構築する。 ○「地域資源の積極的発掘・研究」 ・小値賀の歴史文化に対する学術委員を育成し、変化に富んだ体験プログラムによって、新たなツーリズムを構築する。
<p>長崎県対馬市 「海外からの観光交流促進と外部交流による新しい価値の発見」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○対馬市(政策部、観光商工部、保健部等) ○F集落代表他 ○対馬観光物産協会 ○NPO法人「対馬郷宿」 ○対馬ちんぐ音楽祭実行委員会 ○厳原港まつり対馬アリラン祭実行委員会 	<p>○鹿児島県ほか、全国の離島地域同様、対馬市全体で人口減少が進んでおり、近年10年間で1割強の減少がみられる。</p> <p>＜対馬市＞ ・高齢者率 26.2% ・人口増減率 0.88</p> <p>○F集落は、昭和40年をピークに、人口減少が進んでいる。</p> <p>対象集落：F集落 高齢者率：60%以上 人口：63人</p>	<p>○ツシマヤマメコなど貴重な動植物が息する豊かな森林資源をもつ離島地域である。(対馬市)</p> <p>○F集落は各戸が80~100haの林地を所有し、入会地も200ha有る。</p> <p>○江戸時代に一度絶滅した猪が近年発生し、大きな被害がある。(対馬市)</p> <p>○F集落には伝統的な石堀や家屋高、床式倉庫が残る。</p> 	<p>○国際交流が盛んで、韓国人の観光客数が、平成元年の24人から、平成18年には55千人に急増した。(対馬市)</p> <p>○韓国との交流イベントを年3回開催している。(対馬市)</p> <p>○ハンダサインが市内全域に完備している。(対馬市)</p> 	<p>○バスは朝昼に2便あり、F集落で折り返す。(対馬市)</p> <p>○小中学校統合により、F集落からスクールバスが運行されている。(対馬市)</p> <p>○F集落の最寄り診療所の診療日は木曜日のみである。</p> <p>○F集落内に小規模小売店が2軒ある。</p> 	<p>○神社と寺で毎年各4回の祭事を開催している。なお、寄合は年2回、公役は年3回実施している。(F集落)</p> <p>○地域固有の民家や倉庫、石堀研究のために、各地の大学がよく滞在している。(F集落)</p> <p>○近年定年退職後の方がUターンし、家を新築している。(F集落)</p>	<p>○「市民レベルでの国際交流」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の国際交流は、商工会など、地域住民主体の活動である。これら市民レベルの取組体制を、地域の原動力として継続する。 ○「イベント開催を通じての地域コミュニティの維持」 ・「アリラン祭」などを通じて、地域のコミュニティ活動を継続させる。 ○「外部の視点による新しい価値の発見とその活用」 ・外部の人間に対馬市の歴史資料を紹介することで、新たな発見を得ると共に、観光交流などのきっかけとする。

※高齢者率：H17年国勢調査、人口増減率 H17/H7 国勢調査

※集落関係者のプライバシーに配慮し、集落名はすべてアルファベットで表記しております。

直接面接調査 調査概要 (3)

調査対象地 / 存続・再生施策テーマ	調査対象者	人口動態	国土保全・地域資源	地域産業・経済	生活サービス	地域コミュニティ・交流	直接面接調査から 得られた今後の主な施策案
<p>熊本県上益城郡山都町 (旧矢部町) 「中山間地域における集 落の生活サービスの向上 と二地域居住の支援実施」</p> 	<p>○山都町 (企画 振興課) ○G1、G2 集落 代表他 ○株式会社まち づくりやべ ○矢部町観光協 会 ○山都町商工会</p>	<p>○山都町は、熊本県の中山間地域 に該当し、人口減少が著しく、 昭和 35 年と比較して、1/2 以上減少している。</p> <p>＜山都町＞ ・高齢者率 37.0% ・人口増減率 0.86</p> <p>○G1 集落 G 2 集落はいずれも 高齢化率が著しく、今後の担 手不足が問題となっている。</p> <p>対象集落：G1 集落 高齢者率：70%以上 人口：19 人 対象集落：G2 集落 高齢者率：100% 人口：25 人</p>	<p>○九州中央山地国定公園に 該当する美しい農山村風 景が広がる地域である。 (山都町) ○河川環境がよく、ヤマメな どの魚が釣れる。(G1、G 2 集落) ○家電製品の不法投棄がみ られる。(G1、G2 集落) ○鳥獣被害として、シカの食 害がみられる。(G1、G2 集落)</p> 	<p>○特産品はブルーベリー、お 茶、トマトとなっている。 (山都町) ○農業生産額は減少してお り、農業従事者は主に土木 関係との兼業農家が多い。 (山都町) ○就労場所は、熊本市に通勤 している人もいるが、諸事 情により転居した人も見 られた。(山都町)</p> 	<p>○浜町の商店街は、かつて商 圏が 5 万人となっていた が、現在では 2 万人を切っ ている。(山都町) ○コミュニティバスは、今 後、週に 2 回のみとなるた め、不便となる。(G1、G2 集落) ○病院の運行するバスで買 い物を済ませることがあ る。(G1、G2 集落)</p> 	<p>○八朔まつりは、300 年 前から続いている祭 事であるが、準備が大 変であり、止める集落 も出てきている。(山 都町) ○かつて相撲、大綱引き などの祭事を実施し ていたが、高齢化によ って伝統行事が小規 模化している。(G1、 G2 集落) ○寄り合いは月に 1 度 実施している。(G1、 G2 集落)</p>	<p>○「準住民の二地域居住の支援」 ・山都町の転出者は、比較的近い 熊本市に就業、居住しており、 それらの人々を「準住民」とし て位置づけ、残った世帯や家族 を支援し、集落の存続に寄与す るキーパーソンとしていく。 ○「生活サービスの質の向上」 ・中山間地域の高齢化集落は、孤 立化の一途をたどっており、こ れらを解消する方策として、商 店街や病院と連携した移送サー ビス、デマンドバスの展開など、 集落の足を確保する方策につ て検討する。</p>
<p>熊本県阿蘇郡小国町 「九州ツーリズム大学で の人材育成と I ターン定住 希望者への職住照会」</p> 	<p>○小国町 ○H 集落代表他 ○九州ツーリズ ム大学 ○I ターン 経験者 ○小国ツーリズ ム協会</p>	<p>○小国町は温泉等豊かな観光資 源があるものの、他の中山間地 域と同様、人口減少が進んで いる。</p> <p>＜小国町＞ ・高齢者率 30.9% ・人口増減率 0.92</p> <p>○H 集落は高齢化率が著しく、今 後の担い手不足が問題となっ ている。</p> <p>対象集落：H 集落 高齢者率：30%以上 人口：111 人</p>	<p>○杖立温泉をはじめ、温泉郷 として豊富な資源がみら れる。(小国町) ○「悠木の里」づくりを推進 し、小国ドーム、木魂館 など、小国杉を使用した巨 大木造施設がある。(小国 町) ○高度経済成長期の杉植林 の影響で、土砂災害が発生 しやすくなっている。(H 集落)</p> 	<p>○近年、農業担い手が不足し ている。(小国町) ○ジャージー牛、黒豚などを 地域の特産品としてブラ ンド化している。(小国町) ○小国杉は著名だが、最近の 材価の低下に伴い、林業従 事者が減り、製材も減少傾 向にある。(小国町)</p> 	<p>○病院は、町の中心部に位置 し、診療科目は、内科、外 科となる。それ以外の診療 科目は、町外へ通院して いる。(小国町) ○すべてのバス路線が「ゆう ステーション」を経由す るようになっており、「道の 駅」は町の交通結節点とな っている。(小国町)</p> 	<p>○九州ツーリズム大学 において、農山村の生 活を踏まえながら、グ リーンツーリズムの コーディネーター等 を育成している。(小 国町) ○マウンテンバイクジ ャパンシリーズ (4 月)、杖立温泉鯉のぼ りまつり (4~5 月)、 阿蘇ツーデーマーチ (5 月)、小国古音楽 祭等、イベントは伝統 的なものが多い。(小 国町)</p>	<p>○「九州ツーリズム大学による担 い手育成」 ・現在課題となっている資金・基 盤を見直し、今後も安定的な人 材育成が求められる。 ○「道の駅を活用した複合的サー ビスの提供」 ・「ゆうステーション」を核施設と して周辺整備を行い、生活拠点 として、地域のにぎわいを創出 する空間として整備していくこ とも考えられる。 ○都市・農村を結ぶコーディネ ーターの必要性 ・都市住民受け入れ時に、UIJ タ ーン者にコーディネーターを依頼し、都 市・農村の意識差を埋め、相互 理解促進を努める。</p>
<p>熊本県阿蘇郡南小国町 「中山間地域における生 活実態とゆうステーショ ンを中心とした広域生活 サービス拠点の形成」</p> 	<p>○南小国町 (町 民課、産業振 興課、総務課) ○I1、I2、I3 集 落代表他</p>	<p>○南小国町は温泉等豊かな観光 資源があるものの、他の中山間 地域と同様人口減少が課題と なる。</p> <p>＜南小国町＞ ・高齢者率 33.7% ・人口増減率 0.88</p> <p>○I1、I2、I3 集落ともに小規模・ 高齢化が顕著な集落となる。</p> <p>対象集落：I1 集落 高齢者率：50%以上 人口：9 人 対象集落：I2 集落 高齢者率：45%以上 人口：11 人 対象集落：I3 集落 高齢者率：20%以上 人口：15 人</p>	<p>○黒川温泉に代表されるよう に、特徴的な観光資源が 豊富にある。(南小国町) ○そば街道ができてから、ご みの投棄が目立つ。(I1、 I2、I3 集落) ○景観条例を制定し、開発誘 導のためのガイドライン を策定している。(南小国 町)</p> 	<p>○黒川温泉を中心として、観 光産業が盛況である。(南 小国町) ○たかな漬け、しいたけ、ま いたけ、ジャージー牛乳な どが特産品となる。 ○小国杉が有名だが、近年は 林業従事者が減少し、林の 手入れが行き届いていな い。(I1、I2、I3 集落)</p> 	<p>○眼科、耳鼻科、産婦人科な どは、隣の小国町へ依存し ている。(I1、I2、I3 集落) ○全ての集落を回るバスを 運行している (拠点小国 町の「ゆうステーショ ン」)。(南小国町) ○CATV回線を利用してイン ターネットが利用可能で ある。(南小国町)</p> 	<p>○役場企画課内に定住 促進の窓口を設置し ている。(南小国町) ○商工会主催のふるさと 夏祭りは、帰省客で にぎわう。(I1、I2、 I3 集落) ○現在集落再編を検討して いるが、祭事などの伝統 行事の統合について工夫 が必要となっている。 (I1、I2、I3 集落) ○グリーンツーリズム をきっかけに移住し た新規住民者への支 援などが必要となっ ている。(I1、I2、I3 集落)</p>	<p>○「集落の小規模化に伴う再編の 必要性」 ・各集落とも 4~10 戸程度と小規 模化しており、これまでに複数 集落共同活動もみられることか ら、集落再編が考えられる。 ○「生活サービス機能を広域で効 率化」 ・現在バス運営、ごみ処理など、 広域で実施している生活サー ビスをさらに展開し、観光振興 なども、隣接する小国町、阿蘇町 と共同で実施し、効率化を図る。 ○「景観維持のための地道な取組」 ・現在の景観計画等の条例を継続 し、町民全体で築く農山村景観 を維持する体制を保持する。</p>

※高齢者率：H17 年国勢調査、人口増減率 H17/H7 国勢調査 ※集落関係者のプライバシーに配慮し、集落名はすべてアルファベットで表記しております。

直接面接調査 調査概要(4)

調査対象地 / 存続・再生施策テーマ	調査対象者	人口動態	国土保全・地域資源	地域産業・経済	生活サービス	地域コミュニティ・交流	直接面接調査から 得られた今後の主な施策案
<p>大分県竹田市 (旧直入町)</p> <p>「中山間地域の生活実態(直入町)と長湯温泉等地域資源の活用促進」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○竹田市(企画情報課、産業課) ○J集落代表他 ○JA 大分みどり直入支店 ○直入町商工会 ○長湯温泉協会 	<p>○竹田市は、九州圏の市の中で最も高齢化が著しい地域となる。</p> <p>〈竹田市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者率 38.0% ・人口増減率 0.87 <p>○J集落では独居高齢者への対応が課題となっている。</p> <p>対象集落：J集落 高齢者率：100% 人口：2人</p>	<p>○祖母^{そぼかむき}嶺 国定公園に指定された自然豊かな地域である。(竹田市)</p> <p>○著名な観光資源として、長湯温泉がある。(旧直入町)</p> <p>○樹林地の管理放棄によって荒廃している箇所がある。(旧直入町)</p> <p>○イノシシなどの鳥獣被害が発生している。(旧直入町)</p> 	<p>○稲作中心に、畜産、シイタケ栽培を加えた複合農業が典型的である。(竹田市)</p> <p>○高い炭酸濃度を有する長湯温泉があるが、宿泊客が少ないことが問題となっている。(旧直入町)</p> <p>○小津留涌水の駅ならびに直売所が人気を呼んでいる。(旧直入町)</p> 	<p>○地域路線バスの赤字が続き、平成19年に19路線が廃止され、平成20年にはさらに4路線が廃止予定となる。(竹田市)</p> <p>○救急病院が医師不足で受け入れが困難になってきている。(竹田市)</p> <p>○ADSLと光ファイバーがある。平成21年にはCATVの整備が完了予定である。(竹田市)</p>	<p>○空き家はあるが、別荘化しており、空家バンクへの登録は少ない。(竹田市)</p> <p>○長湯温泉の再生を目指し、薬膳料理などで観光交流促進に取り組んでいる。(旧直入町)</p> <p>○長湯温泉協会を中心に、地域交流関連で様々な取組を実施しており、今後相互の取組の連携の強化が必要となっている。(旧直入町)</p>	<p>○「小規模・高齢化した集落での生活維持のための見守りシステムの構築」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にも取り扱いやすい情報通報システムの導入や見守り関係者相互間での情報の共有などの体制を構築する。 ○「観光産業の地域経済波及効果を高めるための方策検討」 ・課題となっている農業と観光の連携を強化し、長湯温泉と合わせながら経済波及効果に取り組む。 ○「既存資源(空き家)を活用した定住化の促進」 ・直入地区は大分市に近く定住希望者は多い。期限付きの貸家を行うなど、さらにきめ細かな措置が考えられる。
<p>大分県日田市 (旧上津江村)</p> <p>「中山間地域の自助努力による地域づくりと地域資源を活用した地域産業活性化」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○日田市(企画課) ○上津江振興局(総務振興課、産業課) ○K集落代表他 ○株式会社トライウッド ○株式会社つえーピー 	<p>○日田市では、合併前の中山間地域における旧市町村などで、特に人口減少・高齢化が深刻化している。</p> <p>〈日田市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者率 26.5% ・人口増減率 0.88 <p>○K集落は、高齢化率が高く、今後の担い手の確保が課題となる。</p> <p>対象集落：K集落 高齢者率：40%以上 人口：78人</p>	<p>○英彦山につらなる山間景観で、耶馬・日田英彦山国定公園に指定されている。(日田市)</p> <p>○林道周辺に大型家電などの不法投棄が目立つ。(日田市)</p> <p>○衰退の著しい集落は集落統合や集落維持活動の共同化を進めているが、住民から反対の意見もみられる。(日田市)</p> 	<p>○わさび、椎茸、小松菜などの山菜や、木工品、チェーンソーアートなどが特徴である。(旧上津江村)</p> <p>○木材加工産業「トライウッド」を設立している。(日田市)</p> <p>○「つえーピー」がわさび、ゆずの加工品を製造・販売している。</p> 	<p>○スクールバスを日中はデマンドバス(主に通院利用)に活用している。合併に際しバスの存続・廃止が問われたが、住民からの強い要望があり、存続している。(日田市)</p> <p>○買い物は菊池市、小国方面へ行く者も多い。(旧上津江村)</p>	<p>○コミュニティビジネス支援事業に採択されたことがきっかけで、大牟田市への農作物の直販、食の提供、農家民泊が始まっている。(K集落)</p> <p>○地区のまとまりがよく(寄り合いは月1回以上開催)、地区の活性化に自力で取り組んでいる。(K集落)</p> <p>○道づくり、景観整備(ジャクナゲ)などをボランティアで実施している。(K集落)</p>	<p>○「集落の自助努力による地域づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題に対し、日常的に話し合いを設けることで、共有意識に基づく自発的活動を促進させる。 ○「互いを知ることから始まる定住化への取組」 ・定住化の前段階として、民泊などをさらに促進し、合わせて行政側も就業、住宅支援など、共同で実施する。 ○「地域資源を活用したブランド化」 ・トライウッド、つえーピーのように、既存の企業、資源を活用し、相互連携でブランド化に取り組むことが考えられる。
<p>宮崎県児湯郡西米良村</p> <p>「中山間地域における産業振興とワーキングホリデー制度による都市・農村交流」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○西米良村 ○L集落会長、副会長 ○農業従事者 ○JA女性部 ○ふるさと研究会 ○米良食品 	<p>○西米良村は、宮崎県の中山間地域に位置し、周辺の農山部同様、小規模・高齢化が進んでいる地域である。</p> <p>〈西米良村〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者率 40.8% ・人口増減率 0.85 <p>○L集落は、昭和35年以上人口が減少し続けており、昭和35年時の人口から1/6まで減少している。</p> <p>対象集落：L集落 高齢者率：65%以上 人口：101人</p>	<p>○豊かな山あいの地域資源で九州中央山地国定公園に指定されている。(西米良村)</p> <p>○21世紀に残したい日本の自然景観100選に選定されるなど、農山村の風光明媚な場所である。(西米良村)</p> <p>○不在地主化した山林が荒廃しており、維持管理が必要となっている。(西米良村)</p> 	<p>○柚子・ほおずきのブランド化に取り組んでいる(西米良村)</p> <p>○その他、地域の特産品として、西米良サーモン、米良糸巻き大根、イセイモなどがある。(西米良村)</p> <p>○かつては木材加工が盛況だったが、現在は低迷している。(L集落)</p> 	<p>○各集落まで無線LANによりブロードバンド整備が整っている。各世帯にもサービスが開始されている。(西米良村)</p> <p>○買い物は各地区で可能(移動販売も含む)(西米良村)</p> <p>○集落の診察巡回は月に1回実施されている。(L集落)</p> <p>○診療所までの所要時間はバスで1時間以上必要である。(L集落)</p> 	<p>○菊池候の「てごり(平等・助け合い)の精神」を継承しており、ボランティア活動が定着している。(西米良村)</p> <p>○JA女性部による無償の弁当配食サービスを組織的に実施している。(西米良村)</p> <p>○ワーキングホリデーによる都市部との交流がみられる。(西米良村)</p> <p>○「神楽」「語り部」育成によりコミュニティの結束力強化されている。(西米良村)</p>	<p>○「伝統文化『神楽』『民話の語り継ぎ』『山の文化』の継承により、UIJターン・地縁コミュニティを結ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神楽を介して、地域の伝統文化を観光化させるのみならず、教育プログラムとしても根付かせる。 ○アンテナショップ・ネットを活用した地域ブランド育成支援 ・加工による高付加価値化やアンテナショップ・ネット販売といった経路を、九州圏において総合的に取り組むことが重要と考えられる。 ○高齢化社会に適合した農業への転換 ・猟友会の後継者育成、高齢者でも持続可能な農産物への転作を検討する。

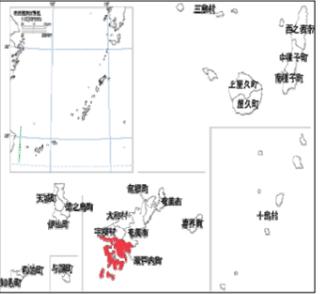
※高齢者率：H17年国勢調査、人口増減率 H17/H7 国勢調査 ※集落関係者のプライバシーに配慮し、集落名はすべてアルファベットで表記しております。

直接面接調査 調査概要 (5)

調査対象地 / 存続・再生施策テーマ	調査対象者	人口動態	国土保全・地域資源	地域産業・経済	生活サービス	地域コミュニティ・交流	直接面接調査から 得られた今後の主な施策案
<p>宮崎県西臼杵郡高千穂町</p> <p>「神楽からみたコミュニティの形成と農業・観光が一体となった地域振興方策」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○高千穂町(企画情報課) ○高千穂町観光協会 ○高千穂神楽・天岩戸神楽保存会 ○M1、M2集落公民館村おこしグループ 	<p>○高千穂町は、宮崎県の中山間地域に位置し、周辺の農山部同様、小規模・高齢化が進んでいる地域である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p><高千穂町></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者率 32.7% ・人口増減率 0.88 </div> <p>○M1集落は、高齢化が高いが、民泊、物産品販売などの地域振興が成功している。</p> <p>○M2集落は、市街地から離れた中山間地に位置し、戦後以降、人口減少が深刻化している地域となる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>対象集落：M1集落 高齢者率：20%以上 人口：259人 対象集落：M2集落 高齢者率：70%以上 人口：103人</p> </div>	<p>○九州中央山地国定公園に指定され、また棚田 100 選に選定されるなど、豊かな山間の景観がある。(高千穂町)</p> <p>○イノシシ、鹿の農作物被害が多く、対策に追われている。(高千穂町)</p> <p>○空き家自体は無いが、家屋を手放す場合は、撤去などの処理を行う必要があり、負担となっている (M2 集落)。</p> 	<p>○農業・林業の低迷が顕著になっている。(高千穂町)</p> <p>○M1 集落で、「温泉茶屋」や「神楽の館」による飲食、宿泊施設をオープンさせ、からいもだんご(年間 7 万個の売り上げ) など、ヒット商品もあり、成功を収めている (M1 集落)。</p> 	<p>○町営のコミュニティバスが運行しており、ほとんどの集落は路線をカバーしている (高千穂町)。</p> <p>○M2 集落では、大きな買い物は、熊本へ行くことが多い (M2 集落)。</p> <p>○高千穂町中心地に、総合病院はあるが、診療科目が限られており、大きな病気など、熊本市等に頼っている状況である (高千穂町)。</p> 	<p>○祭事から観光まで、日常生活の中で神楽を実施する習慣が定着しており、合同練習等を通じて寄り合いが習慣化されている。(高千穂町)</p> <p>○高千穂町企画情報課から、HP 上に不動産情報が限られており、大きな病気など、熊本市等に頼っている状況である (M1 集落)</p>	<p>○「神楽を活用した各集落一体となった観光施策の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神楽をはじめとした、集落各々の地域資源を発掘、活用しつつ、さらに神楽を通じた集落間同士の連携交流を深めながら、高千穂町全体の観光活動の底上げを図る。 ○「新たな資源の掘り起こし」 ・山間部の谷沿いに位置する集落では、かつてアブラメなどの魚が取れたなど、現在にはみられない豊富な川の恵みがあつたとされている。これらの環境再生が、山村体験などの取組につながり、ひいては集落振興につながると考えられる。
<p>鹿児島県薩摩川内市 (旧下甕村)</p> <p>「島嶼部における生活状況と新たな地区コミュニティ協議による集落の再編成」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○薩摩川内市 ○N 集落会長、副会長、コミュニティ主事 ○I ターン定住者 ○診療所医師 	<p>○薩摩川内市自体は、県下 4 番目の人口を擁するが、甕島は過疎が進行している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p><薩摩川内市></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者率 37.9% ・人口増減率 0.84 </div> <p>○N 集落は、甕島に位置するが、甕島自体に高校がないことや、就業場が無いことから、人口減少が進んでいる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>対象集落：N 集落 高齢者率：80%以上 人口：54人</p> </div>	<p>○豊かな海洋資源が豊富にあり、自然が生み出した奇岩・断崖などの景勝地がみられる。(旧下甕村)</p> <p>○台風の災害時に、斜面地集落でがけ崩れ等の発生の危険がある。(N 集落)</p> <p>○空き家が数件存在し、不在地主化した家屋が、台風によって崩壊する危険性がある。(N 集落)</p> 	<p>○海洋深層水による商品展開。海産物(特にキビナゴ)のブランド化に取り組んでいる。(旧下甕村)</p> <p>○鹿児島の黒毛和牛の生産牛を育てているが、専業で実施している業者は少ない。(旧下甕村)</p> 	<p>○島内唯一の公共交通機関は市運営のバスとなる。(旧下甕村)</p> <p>○手術可能な優良診療所があり、また各地区に週に一度の診察巡回を行っている。(旧下甕村)</p> <p>○買い物は隣の集落までバスで移動(30分以上)し、商店や新聞配達に集会所までの宅配を依頼している。(N 集落)</p> 	<p>○働く場所がないため、U ターン希望者が戻れない状況である。また高校生になると、県内各地へ転出し、帰ってこない状況にある。(旧下甕村)</p> <p>○地域コミュニティ制度の導入により、各地区にコミュニティ主事が常駐するが、人手不足によって、安定した人員を確保できていない。(旧下甕村)</p> <p>○伝統文化の「手踊り」は、高齢化、担い手不足で継承が厳しくなっている。(旧下甕村)</p>	<p>○「小規模・高齢化集落に対する総合的な生活支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各集落の自立支援を行うため、コミュニティ主事を配置し、地区会長のサポートや、公共交通・医療・買い物等の日常生活支援を実施する ○「転出者の一時帰省や来訪者の滞在型体験学習のための受け皿づくり」 ・コミュニティセンターや空き家を資源としてとらえ、転出・あるいは UIJ ターン者の一時的な宿舎・住まいとして解放する。 ○「UIJ ターン者に対する支援制度の拡充」 ・UIJ ターン者の生活支援策を総合的に実施する。
<p>鹿児島県南さつま市 (旧金峰町)</p> <p>「NPO による地域交流の効果と課題及び今後の展開方策」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○南さつま市(総務企画課) ○O 集落代表他 ○NPO 法人エコ・リンク・アソシエーション 	<p>○合併前の旧加世田市以外の旧町村で、急激な人口減少・高齢化が進んでいる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p><南さつま市></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者率 33.6% ・人口増減率 0.91 </div> <p>○O 集落では、昭和 24 年をピークに、人口は減少し続けている。平成 5 年の土砂災害以降、移転した者も多くみられる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>対象集落：O 集落 高齢者率：100% 人口：19人</p> </div>	<p>○砂丘など、貴重な海辺の地域資源がある。(南さつま市)</p> <p>○棚田の管理が行き届かず、放棄されている。(O 集落)</p> <p>○空き家の調査を実施しているが、危険度の把握を目的としたものであり、利活用に留意したものではない。(南さつま市)</p> 	<p>○農業の低迷が顕著になっている。(南さつま市)</p> <p>○農業が基幹産業であり、米、ソバ、焼酎芋などを生産している。(旧金峰町)</p> <p>○かつては薪炭による収入がかなりあった。(O 集落)</p> 	<p>○公民館の前にバスが来ているが、1日に2本のみであり、あまり利用はみられない。(O 集落)</p> <p>○買い物、医療等は旧川辺町周辺に出かけている。(O 集落)</p> <p>○情報通信は ADSL だが距離による減衰がみられる。(O 集落)</p> 	<p>○現在、定住支援・短期滞在型就労(ワーキングホリデー)の推進(国際ワークショップの経験から)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業や水産業など第一産業における就業体験を核としたワーキングホリデーを展開し、就業へと誘う準備期間ともなる仕組みを展開する。 ○「「親孝行」短期滞在システムの推進(U ターン者のアイドリング)」 ・人口減少に伴って増えている空き家を活用し、長期滞在可能な「故郷の新たな滞在拠点」を確保・提供していく。 	<p>○「移住・交流を目的としたワーキングホリデーの推進(国際ワークショップの経験から)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業や水産業など第一産業における就業体験を核としたワーキングホリデーを展開し、就業へと誘う準備期間ともなる仕組みを展開する。 ○「「親孝行」短期滞在システムの推進(U ターン者のアイドリング)」 ・人口減少に伴って増えている空き家を活用し、長期滞在可能な「故郷の新たな滞在拠点」を確保・提供していく。

※高齢者率：H17 年国勢調査、人口増減率 H17/H7 国勢調査 ※集落関係者のプライバシーに配慮し、集落名はすべてアルファベットで表記しております。

直接面接調査 調査概要(6)

調査対象地 / 存続・再生施策テーマ	調査対象者	人口動態	国土保全・地域資源	地域産業・経済	生活サービス	地域コミュニティ・交流	直接面接調査から 得られた今後の主な施策案
<p>鹿児島県肝属郡 南大隅町</p> <p>「半島部におけるUIJターン施策の効果・課題・今後の展開方策」</p> 	<p>○南大隅町(総務企画課、産業建設課)</p> <p>○P1、P2 集落代表他</p> <p>○U ターン経験者</p> <p>○I ターン経験者</p>	<p>○南大隅町は、大隅半島の最南端に位置し、町全体で急激に人口減少・高齢化が進んでいる。</p> <div data-bbox="694 310 1003 426" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>〈南大隅町〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者率 41.2% ・人口増減率 0.85 </div> <p>○P集落の人口は、昭和30年代をピークに減少傾向にあり、現在はピーク時の1/3までに減少している。</p> <div data-bbox="694 573 1003 764" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象集落：P1集落 高齢者率：65%以上 人口：92人 対象集落：P2集落 高齢者率：40%以上 人口：21人</p> </div>	<p>○霧島屋久国立公園に指定されており、美しい自然景観が特徴的である。(南大隅町)</p> <p>○地主の高齢化によって、耕作放棄地が増えつつある。(P1、P2集落)</p> <p>○サル、イノシシの鳥獣被害がみられ、そのことによって、営農意欲を失う人も多い。(P1、P2集落)</p> 	<p>○農林水産業が基幹産業であり、養豚などの畜産業も盛んである。</p> <p>○アップルマンゴー、ライチなどの亜熱帯性の果樹を生産している。(南大隅町)</p> <p>○昭和30年代は薪炭、パルプなどの林業が盛んであった。(P1集落)</p> 	<p>○ブロードバンドは現在整備されていない。(南大隅町)</p> <p>○旧佐多町役場近くの民間の病院か、隣接の錦江町にある病院を利用している。(P1、2集落)</p> <p>○日常的な買い物は旧佐多町役場近くのスーパーで用が足りる。(P1、2集落)</p> <p>○公共バスが一日4便運行している。(P1、2集落)</p>	<p>○現在、定住支援の一環として、「南大隅町移住者住宅建築等補助金」の支援策を実施している。(南大隅町)</p> <p>○集落にこだわりがあり、再編などが難しいと考えられる。(P2集落)</p> <p>○毎年1軒送りで、古鏡を送る独特の祭りなど多くの伝統行事を維持している。(P1集落)</p>	<p>○「小規模・高齢化集落に対する生甲斐づくりに結びつくUIJターンの促進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業に快適な気象条件を活かし、新規就業を希望する若年層をターゲットとして、UIJターンの促進を図る。 ○「辺地性を活かした交流事業の推進」 ・本島最南端の南大隅町は、交通アクセスが困難となっている。しかし太平洋・錦江湾に面し、風光明媚で、海産物などの水産資源に恵まれている。これらの資源を活かし、交流・生活サービスの複合機能を併せ持つ交流拠点を整備・拡充していくことが考えられる。
<p>鹿児島県大島郡 瀬戸内町</p> <p>「自然を活用した観光交流支援及び定住促進活動と特産品ブランド化の促進」</p> 	<p>○瀬戸内町(総務企画課、産業課)</p> <p>○Q1、Q2 集落代表他</p> <p>○瀬戸内町観光協会</p> <p>○奄美養魚(マルハ系)</p> <p>○奄美田舎暮らし支援センター</p>	<p>○瀬戸内町は、中心市街地の古仁屋地区に相對して、その周辺地域や離島で急速に人口減少・高齢化が進行する2極化地域である。</p> <div data-bbox="694 951 1003 1056" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>〈瀬戸内町〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者率 32.9% ・人口増減率 0.90 </div> <p>○加計呂麻島に位置するQ1集落ならびにQ2集落では、いずれも深刻な人口減少・高齢化が進行している。</p> <div data-bbox="694 1203 1003 1394" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象集落：Q1集落 高齢者率：80% 人口：10人 対象集落：Q2集落 高齢者率：60%以上 人口：16人</p> </div>	<p>○一年を通じて、静穏度の高い大島海峡があり、漁業の養殖に適し、また海上交通の拠点としての賑わいもみられる。(瀬戸内町)</p> <p>○農地では、野ヤギ、イノシシなどによる農地への鳥獣被害がみられる。(瀬戸内町)</p> 	<p>○第1次産業から第3次産業への転換が進んでおり、第3次産業では、観光業の増加がみられる。(瀬戸内町)</p> <p>○大島海峡においてマグロ・真珠の養殖を行っている。現在、マグロは横ばい、真珠は停滞ぎみとなっている。(瀬戸内町)</p> 	<p>○ネットは古仁屋地区にADSLが整備されているのみで、周辺の集落には行き届いていない。(瀬戸内町)</p> <p>○加計呂麻島は本島と定期船で30分程度であり、古仁屋地区の通勤圏となっている。(Q1集落)</p> <p>○移動販売が巡回しており、集落内で買い物が可能である。(Q1集落)</p> <p>○巡回診療も月に1~2回実施されている。(Q1集落)</p> 	<p>○年に1度、旧暦の8月15日に、「豊年祭」が開催され、集落外に住む子供たちが帰省し、家族で祝う風習がある。(瀬戸内町)</p> <p>○定期的な集会はないが、近所の庭先で頻繁に集まり語らっている。(Q1、Q2集落)</p> <p>○水源管理なども、自分たちで何とか実施しているが、先行き不安である。(Q1、Q2集落)</p> <p>○集落の維持は困難で合併もやむなしと考えている。(Q1、Q2集落)</p>	<p>○「豊かな自然環境を活用した観光施策の促進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年中静穏度の高い大島海峡の個性を活かし、海洋レジャー関連の観光交流を促進させる。 ○「観光交流をきっかけとした定住支援の促進」 ・観光交流をきっかけとして、Iターンがみられることから、観光交流と合わせて定住支援を実施する。 ○「大島海峡との保全・利用の調和の取れた付き合い方」 ・養殖からダイビングまで、大島海峡の自然環境の恩恵を受けていることから、今後も保全を心がける。

※高齢者率：H17年国勢調査、人口増減率 H17/H7 国勢調査 ※集落関係者のプライバシーに配慮し、集落名はすべてアルファベットで表記しております。